

カラマツの更新の ナゾを推理する



後方 母樹カラマツ林
手前 更新カラマツ林

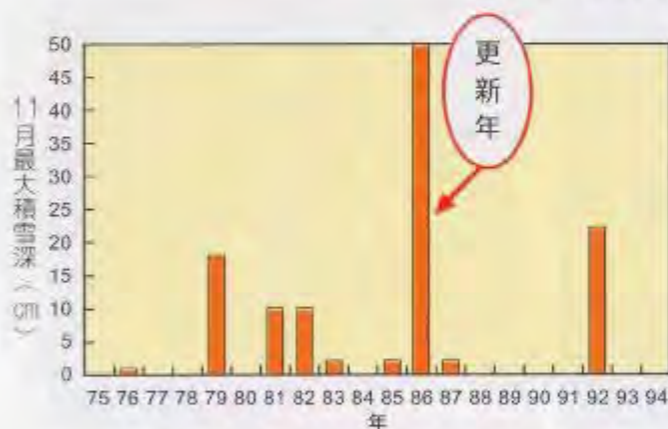
カラマツは風によってタネをとばし更新する性質があり、裸地があれば手間をかけずにカラマツ林を更新させることが出来そうです。ところが、カラマツ造林地の多い胆振・十勝地方では、タネさえ飛んでくれば容易に更新するというわけではないようです。写真のカラマツ林は胆振の厚真町にあります。ほとんどが10年生です。この10年間にタネの豊作年は何回があったのに、最近更新した稚樹は数えるほどしかありません。なぜでしょうか？

冬の積雪が少ない地域では、厳しく冷え込むと地下で霜柱ができて地表面を持ち上げる「凍上」という現象が起こります。稚樹がまだ小さいうちに凍上にあうと、根上がりや断根によって枯死してしまうのです。厚真のカラマツ林も

更新できた年は例外的に積雪が多く、積雪が凍上の発生を防いで稚樹をまもったのではないかと推理しています。

今後も、全道で類似事例をさらに調査し、天然更新をスムーズに実行するための技術的指針を検討していきます。カラマツの天然更新林分を見かけたらご一報下さい。

〈立地科〉



厚真町の11月最大積雪深 - 20年間の推移 -



95年春 凍上、倒伏した稚樹



地下2cmで、凍上層ができています。